

大村町子ども会

平成二十五年大村町恵比寿六月燈

# 水戸黄門

## 《配役》

水戸黄門	颯太郎
助さん	空
格さん	圭佑
お銀	優利奈
お百姓	朋甫
子ども①	麻鈴
②	美桜
③	空来
④	知里

黒駒の親分	秀栄
若頭	匠平
子分①	生吹
②	竜成
③	隆登
家老	裕大
進行	なつみ
特別出演	愛翔
	凌
	夢大

## 《用意するもの》

・水戸黄門セット ・サッカーボール ・刀 ・米俵 ・大根  
 ・背景(家老の屋敷) ・金子入れ ・酒飲みセット ・短筒 ・忍者の衣裳

## 《あらすじ》

水戸黄門一行が久しぶりに大村町を訪ねた。のどかな大村町のように見えるが、裏では家老と結託した黒駒の親分が仕切っていて、農民から法外な年貢米を取り立て、民百姓を苦しめていた。水戸黄門は家老を諫め、大村町にはまた平和が訪れるのであった。

### 【幕前】

なつみ (幕前に、右から、なつみ、愛翔、凌、夢大の順に並ぶ)  
 礼！(四人一緒に礼をする)

ただ今の「笑点」の大喜利、いかがだったでしょうか。これから、大村町子ども会の劇を始めます。今年の劇は久しぶりに「水戸黄門」です。一体どんな物語が展開することでしょう。

劇を始める前に、来年から一年生になるお友達に、自己紹介をして頂きます。

愛翔

(二歩前に出て礼をして)

ぼくは、井手年志子の孫、井手淑忠の次男、井手愛翔と申します。来年から小学一年生になります。どうぞよろしくお願いいたします。

(礼をして一歩下がる)

凌

(二歩前に出て礼をして)

ぼくは、山元重光のひ孫、亀園勝久の孫、亀園祐介の長男、亀園凌と申します。来年から小学一年生になります。どうぞよろしくお願いいたします。(礼をして一步下がる)

夢大

(一步前に出て礼をして)

ぼくは、海野末広の孫、海野光男の長男、海野夢大です。来年から小学一年生です。どうぞよろしくお願いします。

(礼をして一步下がる)

なつみ

今年も大村町子ども会は、一生懸命練習しました。どうぞご期待ください。礼！(四人一緒に礼をして、幕間から引っ込む)

### 【幕前】

黄門一行

(水戸黄門のテーマ曲が流れる中、黄門を先頭に助さん、格さんの順で、客席からせり出しを通り、幕前中央に進む。黄門が中央に立ち、助さん、格さんが両脇を固める)

黄門

助さん(「ハッ」)、格さん(「ハッ」)、久しぶりに大村にやってきましたが、空気が美味しい。田畑の緑もいい。平和そのものですな。

助さん

ご隠居。ここは馬頃尾という土地らしいですな。

格さん

祁答院ゴルフクラブという看板がありますが、一体何をやるんでしょうね。

黄門

あれはじゃな、長い棒で小さな玉転がしをする遊びじゃよ。この大村も色々と変わってきたもんじゃの。

助さん

ご隠居、あの日の丸橋を渡れば目指す大村町です。

格さん

ところで助さん、先回りしたお銀は、どうしましたかね。

お銀

ご隠居ー。(舞台上手幕前から中央へ。黄門の前にひざまずき)

黄門

噂をすれば何とやらだ。どうじゃお銀。大村町の民百姓は、安らかに過ごしておいでか。

お銀

それがご隠居。かくかくしかじかで。(と、黄門に耳打ちをする)

黄門

何？かくかくしかじかじゃと？

お銀

はい。それでは、ごめん。(すぐに元来た方へ消える)

黄門

助さん(「ハッ」)、格さん(「ハッ」)、大事に至らぬ前に大村町の大掃除じや。先を急ぎましょう。(助・格「ハッ」と言って立ち上がる)

黄門一行

(舞台幕前下手に消える)

【第一幕】

(背景…シルバー、草むら)

子ども達

(舞台中央で「かごめかごめ」をして遊んでいる)

知里

今度は麻鈴ちゃんの鬼よ。

麻鈴

はくい。

子ども達

♪かーごめかごめ、かごの中の鳥は、いついつでやる、よあけのばんに、つーるとかめがすべった、うしろのしょうめん、だくれ。

麻鈴

美桜ちゃん。

知里

さんねんでした。空来ちゃんでした。

空来

こんどは、けまりしようよ。

(サッカーボールを蹴って遊び始めたところへ、黄門一行、下手から登場)

助さん

ご隠居、けまりしてますよ。

格さん

一緒に遊びましょうか。

黄門

ワシも若い頃は良くやっていたもんじゃ。子どもさんたち、このじいも仲間にしてくれんかの。

麻鈴

おじいさんできるの。

美桜

けがしてもしらないわよ。

(黄門一行、リフティングなどしてみせる)

空来

おじさんたち、じょうずね。

黄門

いやいや。じいさんは年寄りだからすっかり疲れましたよ。

知里

わたしたち、もうおそくなったから家にかえる。

黄門

そうかい、そうかい。気をつけてお帰り。

子ども達

はくい。さようなら。(子ども達下手に引っ込む)

黄門

助さん、格さん、寄る年波にはかありませんな。どれ一休みしましょう。(と言って、米俵に腰掛ける)

朋甫

コラーツ。(とすごい形相で近づき大根で黄門の頭を叩く)

助さん

何をする。

朋甫

何をするもないモンだ。俺たち百姓が精魂込めて作った米の上に、尻を下ろすなんて許せねえ。

格さん

何を言うか。こちらにおわすお方は……。

黄門

イヤイヤ格さん。およしなさい。これはこれはお百姓さん、私が悪うございました。これこの通り、どうか許して下さい。助さん、格さん、あなたたちも一緒に詫言ひするんじや。

(黄門一行、両手をついて詫言ひる)

朋甫

もういいよ。手を上げておくれ。どうせその米も、お上の手下に持って行かれちゃうんだ。

黄門

お百姓さん、一体どういことですか。

朋甫

大村町の城代家老は、黒駒一家に上納米の取り立てをやらせ、あぶく銭を懐に入れてる。そのせいで、俺たち百姓はいつも貧乏暮らした。

助さん

お銀の言っていたことが証明されたようすな、ご隠居。

黄門

そのようすな。

匠平

(上手から、秀栄、匠平、生吹、劉生、隆登がゾロゾロ出てくる)

おい、朋兵衛。今月分の上納米取りに来たぜ。

朋甫

黒駒の親分、頼むから今回だけはお目こぼしして下さい。子どもに米粒を食わせてやりたいんだ。

秀栄

何がお目こぼしだ。おまえ達水呑百姓は、水でも飲んで働け。

朋甫

そんなご無体な。

黄門

私の方からもお願いいたします。何とかありませんか。

生吹

なんだじじい。見慣れない奴だが一体何モンだ。

黄門

ただの旅のじじいでございます。

匠平

ただの旅のじじいが出る幕じゃないだろう。すっこんでろ。(と黄門を転がす)

助・格

ご隠居、大丈夫ですか。貴様等！(と黒駒に殴りかかろうとするのを黄門が押しとどめる)

秀栄

俺たちちやな、城代家老からお墨付きをもらって、上納米を集めているんだ。

匠平 文句があるならご家老に、恐れ多くも、と訴え出れば良いじゃねえか。  
朋甫 城代家老は俺たちとは会ってくれないじゃないか。

匠平 うるせえ。おい、何をもたもたしている。さっさと済ませて、一杯やろうぜ。

子分①② よっころしよ。(子分①②でやつと持ち上げる)

生吹 なにもたついてんだ。(①②から米俵を取り上げてヒョイと片手で持って上手に消える)

【急いで幕】

【幕前】

匠平 (幕中央から出てくる) おーい。野郎ども、集まれ！

(幕前下手から、生吹、竜成、隆登登場)

若頭、何かご用ですか。

匠平 黒駒の親分から、分け前を頂戴した。今から配る。(みんなに金を配る)

生吹 有り難てえ。これで一息付ける。ばくちでもやつて大もうけするか。

竜成 ありがてえ。これでキツトカットが腹一杯食える。

隆登 ありがてえ。これで高江食堂のラーメンが食える。

匠平 いいか手前等、これからも黒駒一家のために命がけて働くんぞ。

生吹 若頭、合点承知の助だ。命を張って頑張りますぜ。

竜成 おいらもだ。

隆登 おいらもだ。

(全員幕間中央から消える)

【第二幕】

(背景…家老屋敷)

(城代家老の部屋。黒駒一家と酒宴を催している。家老と黒駒、酒をやりとりしている)

秀栄 愛甲様。これが今月の菓子代でございます。(金袋を渡す)

家老 いつもかたじけないの。それにしても黒駒、おぬしも悪よのう。ふふふふ・。  
秀栄 愛甲様こそ。ふふふふふ・・・。(酒を注ぐ)  
何だか騒々しいぞ。見て参れ。  
黄門 ごめん。(黄門一行と朋兵衛が下手から出てくる)  
隆登 何だ。昨日のじいさんか。何しにきた。  
黄門 ご家老にお目にかかりたい。  
竜成 ご家老は今お取り込み中だ。さつさと帰れ。  
助さん 上納米取り立てに関して、聞きたいことがある。  
隆登 何も聞かれる筋合いはない。  
竜成 帰れ。さもなれば昨日みたいに痛い目にあわせるぞ。  
格さん おぬし達では話にならぬ。無礼つかまつる。(子分①②をいとも簡単に蹴散らし、ズンズン屋敷内に入っていく)  
竜成 親分、昨日のじいさんがご家老に会いたいと言って乗り込んできましたぜ。  
秀栄 何だと？おい、じいさん、まだ懲りないと見えるな。おい、野郎ども。こいつ等を痛い目にあわせてやれ。  
秀栄 (一発鳴らしてから)いっばひとからげで、あの世に送ってやろうか。  
秀栄 (ジワリジワリ間を詰める)(そこへ、お銀がスルスルッとやってきて短筒を払い落とす)(助さんが、すぐさま当て身)  
家老 たかが旅のじいさん如きに何をしておる。ワシが仕留めてやる。  
家老 (黄門に斬りかかるが、助さん・格さんにあしらわれ、黄門に当て身を食らうてうづくまる)(親分・子分どもも家老の後ろでうづくまる)  
黄門 助さん、格さん、もうここまでじゃ。  
助さん ええい、控えい控えおろー。この紋所が目に入らぬか！こちらにおわすお方をどなたと心得る。恐れ多くも先の副将軍、水戸光圀公にあらせられるぞ。頭が高い。控えい、控えおろー。  
家老 (家老、印籠を見て)あ、あ、ははははは。つ。(と深々と手をつく)(親分・子分どもも真似をする)

